

## 吉川元特任教授 略歴および研究業績

### I 略歴（学歴、職歴）

1951年6月1日 広島市生まれ

#### 〈学歴〉

1976年3月 上智大学外国語学部卒業  
1978年3月 一橋大学大学院法学研究科修士課程修了  
1978年9月～1980年8月 トロント大学 Ph.D. コース（Political Science）  
1982年3月 一橋大学大学院法学研究科博士課程単位取得退学

#### 〈職歴〉

1982年4月 広島修道大学法学部講師  
1983年4月 広島修道大学法学部助教授  
1986年9月～1987年8月 トロント大学ロシア東欧研究センター客員研究員  
1992年4月 広島修道大学法学部教授  
1992年9月～1993年8月 ロンドン大学 LSE 国際関係研究センター研究員  
1998年4月 神戸大学法学部教授  
2000年4月 神戸大学大学院法学研究科教授  
2007年4月 上智大学外国語学部教授  
2013年4月 広島市立大学広島平和研究所教授、広島平和研究所長  
2019年4月～現在 広島市立大学広島平和研究所特任教授

博士（法学）一橋大学（1995年2月8日取得）

博士論文『国際安全保障と人権—CSCE 人的側面に関する考察』

神戸大学名誉教授

### II 研究業績

#### 【著書（単著）】

1. 『ソ連反体制運動の展開—ソ連人権問題の国際化』 広島修道大学総合研究所、1983年、119頁。
2. 『ソ連ブロックの崩壊—国際主義、民族主義、そして人権』 有信堂高文社、1992年、259頁。

3. 『ヨーロッパ安全保障協力会議 CSCE—人権の国際化から民主化支援の発展過程の考察』三嶺書房、1994年、465頁。
4. 『国際安全保障論—戦争と平和、そして人間の安全保障の軌跡』有斐閣、2007年、335頁。
5. 『民族自決の果てに—マイノリティをめぐる国際安全保障』有信堂高文社、2009年、223頁。
6. 『国際平和とは何か—人間の安全を脅かす平和秩序の逆説』中央公論新社、2015年、437頁。

### 【編著】

1. 吉川元編著『予防外交』三嶺書房、2000年、300頁。序論「予防外交の理論と枠組み」(3-24頁)を執筆。
2. 吉川元・加藤普章共編著『マイノリティの国際政治学』有信堂高文社、2000年、251頁。序章「マイノリティと政治学・国際政治学」吉川元・加藤普章共著(3-20頁)、及び13章「マイノリティの安全と国際安全保障」(1-20頁)を執筆。
3. 山田浩・吉川元共編著『なぜ核はなくなるのか—核兵器と国際関係』法律文化社、2000年、249頁。序論「核兵器開発の国際政治」(1-14頁)を執筆。
4. 吉川元編著『国際関係論を超えて—トランスナショナル関係論の新次元』山川出版社、2003年、258頁。序章「国境を超える国際関係論」(3-26頁)を執筆。
5. 吉川元・加藤普章共編著『国際政治の行方—グローバル化とウェストファリア体制の変容』ナカニシヤ出版、2004年、320頁。序章「黄昏のウェストファリア体制とその行方」(3-24頁)を執筆。
6. James Llewellyn, David Walton and Gen Kikkawa, *A Pacifist State in a Hostile Region: Japan and Post War Conflict in Southeast*, New York: Nova Science Publishers, 2009, pp.234.
7. 吉川元・中村覚共編著『中東の予防外交』信山社、2012年、384頁。第1章「予防外交論—中東の紛争予防に向けての試論」(33-59頁)を執筆。
8. 吉川元・矢澤達宏共編著『世界の中のアフリカ—国家建設の歩みと国際社会』上智大学出版、2013年、181頁。
9. 吉川元・首藤もと子・六鹿茂夫・望月康恵共編著『グローバル・ガヴァナンス論』法律文化社、2014年、314頁。序章「グローバル化とグローバル・ガヴァナンス」(1-13頁)を執筆。
10. 吉川元・水本和実共編著(広島市立大学広島平和研究所監修)『なぜ核はなくなるのかⅡ—「核なき世界」への視座と展望』法律文化社、2016年、240

頁。第1章「武器の進化と国際平和」(15-31頁)を執筆。

【共著(分担執筆)】

1. 第2章「ソ連・東欧関係の構造変容—民族共産主義と対抗文化」馬場伸也編『講座政治学5・国際関係』三嶺書房、1988年、93-139頁。
2. 「社会主義の平和外交・人権問題」日本平和学会編『社会主義の理念と平和』早稲田大学出版部、1989年、152-168頁。
3. 「ソ連ブロックの形成と衰退」嶺山道雄編『激動期の国際政治を読み解く本』学陽書房、1992年、135-153頁。
4. 「ソ連・東欧」加藤普章編『入門現代地域研究』昭和堂、1992年、51-71頁。
5. 「CSCEと冷戦構造の変容」細谷千博・丸山直起編『ポスト冷戦期の国際政治』有信堂高文社、1993年、160-177頁。
6. 「社会主義と人権・開発・環境問題」臼井久和・綿貫礼子編『地球環境と安全保障』有信堂高文社、1993年、138-158頁。
7. 「人権の国際政治学」細谷千博・臼井久和編『新版 国際政治の世界』有信堂高文社、1993年、177-185頁。
8. 「人権尊重・民主政治への願い」細谷千博監修、横山宏章・野林健編『国際政治の21世紀像—世界をゆるがすドラマ20幕』有信堂高文社、1996年、178-188頁。
9. 「OSCEとNGO」臼井久和・高瀬幹雄編『民際外交の研究』三嶺書房、1997年、152-174頁。
10. 「積極的平和」臼井久和・星野昭吉編『平和学』三嶺書房、1999年、105-132頁。
11. 「人権」初瀬龍平・定形衛・月村太郎編『国際関係論のパラダイム』有信堂高文社、2001年、140-151頁。
12. 「国際秩序における『主権』概念の変容—国際安全保障と内政不干渉の正当性」神戸大学六甲台五部局百周年記念事業検討委員会編『神戸発 社会科学のフロンティア』中央経済社、2002年、1-33頁。
13. Kikkawa Gen, “Preventing Ethnic Conflicts—A Reconsideration of the Self-Determination Principle,” Sato Hideo, ed., *Containing Conflict: Cases in Preventive Diplomacy*, Tokyo: Japan Center for International Exchange, 2003, pp.21-60.
14. Kikkawa Gen, “Broadening the Concept of Peace and Security,” *Encyclopedia of Life Support Systems*, Eolss Publishers, 2003.
15. 「欧州の予防外交と平和構築—OSCEの予防外交を中心に」磯村早苗・山田康博編『いま戦争を問う—平和学の安全保障論』(グローバル時代の平和学 第2巻) 法律文化社、2004年、91-122頁。

16. 第8章「冷戦の終結とヨーロッパ市民」田中孝彦・青木人志編『〈戦争〉のあとに一ヨーロッパの和解と寛容』勁草書房、2008年、225-246頁。
17. 第7章「国際問題としてのマイノリティ」日本国際政治学会編『日本の国際政治学—国境なき国際政治』第2巻、有斐閣、2009年、135-155頁。
18. 「西欧的国際政治システムへ回帰するアジア」中村雅治・イーブ・シュメイユ共編『EUと東アジアの地域共同体—理論・歴史・展望』上智大学出版、2012年、38-66頁。
19. 序論「正義と国際社会」日本国際政治学会編『国際政治』第171号、2013年1月、1-14頁。
20. 第4章「国際平和とは何か」上村雄彦編『グローバル協力論入門』法律文化社、2014年、40-51頁。
21. 第2章「民族自決主義の功罪」大芝亮編著『ヨーロッパがつくる国際秩序』ミネルヴァ書房、2014年、41-61頁。
22. 「グローバル化と安全保障パラダイム転換—ガバナンスを問う安全保障観の形成過程」初瀬龍平・松田哲編『人間存在の国際関係論—グローバル化のなかで考える』法政大学出版局、2015年、183-211頁。
23. 第2章「戦争と民族強制移動—国際平和の処方としての民族移動の歴史」蘭信三・川喜田敦子・松浦雄介編著『引揚・追放・残留—戦後国際民族移動の比較研究』名古屋大学出版会、2019年、45-73頁。
24. “Comparative Analysis of the Regional Security System of Europe and Asia: Dilemmas of the Asian Security System,” N. Ganesan, ed., *International Perspectives on Democratization and Peace*, Bingley, WY: Emerald Publishing, 2020, pp.171-188.
25. 「ベルリンの壁を崩壊させたピクニック」日本平和学会編『戦争と平和を考えるNHKドキュメンタリー』法律文化社、2020年、46-49頁。
26. 第9章「欧州安全保障協力会議（CSCE）プロセスの再考—規範と制度の平和創造力」広島市立大学広島平和研究所編『広島発の平和学』法律文化社、2021年、177-194頁。
27. 序論「今、なぜアジアの核とガバナンスを問うのか」及び第10章「民主主義による平和」広島市立大学広島平和研究所編『アジアの平和と核—国際関係の中の核開発とガバナンス』共同通信社、2019年、3-9頁、133-147頁。
28. 序章「ガバナンスと国際平和」及び第9章「国家ガバナンスと地域ガバナンス」広島市立大学広島平和研究所編『アジアの平和とガバナンス』有信堂高文社、2022年、3-14頁、106-116頁。

## 【論文】

1. 「ソ連・東欧における反体制運動の国際化—ソ連・チェコスロバキアを中心

- に」『共産主義と国際政治』Vol.4、No.4、Jan.–Mar. 1980、49–74頁。
2. 「現代ソ連・東欧政治制度論—諸アプローチとその問題点」『一橋研究』第4巻第4号、1980年3月、45–63頁。
  3. 「ソ連・東欧における反体制運動—反体制運動から人権運動へ」『ソ連・東欧学会年報1979年』1980年9月、72–88頁。
  4. 「フルシチョフ主義とソ連知識人」『ソ連・東欧学会年報1980年』1981年9月、100–112頁。
  5. 「ソ連における人権問題」『修道法学』第5巻第1号、1982年6月、33–60頁。
  6. 「デタントとソ連人権運動」日本国際政治学会編『国際政治』第81号、1986年3月、115–130頁。
  7. 「ヘルシンキ・プロセスの進展—東西緊張緩和への制度化に向けて」広島大学平和センター編『広島平和科学』9、1986年、45–76頁。
  8. 「ソ連における政治的異端と反体制問題—ソ連人権運動の国際化の成果」『外交時報』No.1246、1988年3月、4–24頁。
  9. 「ソ連圏の市民平和運動と『民主的平和』」『修道法学』第10巻第2号、1988年3月、119–154頁。
  10. 「CSCE プロセスにおける平和と人権」日本平和学会編『平和研究』第13巻第13号、1988年11月、107–119頁。
  11. 「全欧安全保障協力会議とソ連の『新思考』」『ソ連研究』第8号、1989年4月、131–153頁。
  12. 「東西関係と人的移動の自由」『外交時報』No.1262、1989年10月、31–50頁。
  13. 「ソ連の対国際連合政策の転換」日本国際問題研究所編『国際問題』No.365、1990年8月、50–64頁。
  14. 「CSCE プロセスと人権 NGO」『外交時報』No.1293、1992年11月、65–80頁。
  15. 「冷戦期の CSCE と東西対立—人の国際移動と情報普及の自由を中心に」日本国際政治学会編『国際政治』第107号、1994年9月、145–163頁。
  16. 「CSCE 民主化支援と予防外交—民主的平和の構築に向けてのヨーロッパの実験」日本平和学会編『平和研究』第13巻第19号、1995年6月、30–44頁。
  17. 「OSCE 予防外交と共通の安全保障」『修道法学』第19巻第2号、1997年3月、55–93頁。
  18. 「ヨーロッパ安全保障協力機構（OSCE）の予防外交」日本国際問題研究所編『国際問題』No.477、1999年12月、36–49頁。
  19. 「OSCE の安全保障共同体創造と予防外交」『国際法外交雑誌』第98巻第6号、2000年2月、1–34頁。
  20. 「欧州安全保障協力機構（OSCE）における NGO の役割の歴史的変遷と今」『NIRA 政策研究』Vol.14、No.10、2001年、26–29頁。

21. 「国内統治を問う国際規範の形成過程」東京大学社会科学研究所編『社会科学研究』第55巻第5・6合併号、2004年、53-77頁。
22. 「平和構築から紛争予防へ」日本国際問題研究所編『紛争予防』2004年3月、1-12頁。
23. Gen Kikkawa, “Japan’s Contribution to the European Union—Limits to Constructive Intervention,” *Wiener Blätter zur Friedensforschung*, Universitätszentrum für Friedensforschung, September 3, 2004, No.120, pp.8-23.
24. Gen Kikkawa, “Self-determination and Japan: Changes in Self-determination and the impact on Human Security,” *Wiener Blätter zur Friedensforschung*, Universitätszentrum für Friedensforschung, September 3, 2005, No.124, pp.22-37.
25. 「グローバル化時代の紛争予防」日本平和学会編『平和研究』第30号、2005年、21-40頁。
26. Gen Kikkawa, “East Asian International Security in a Dilemma: Why is Asia against Democratic Peace and Security?” *Wiener Blätter zur Friedensforschung*, Universitätszentrum für Friedensforschung, September 3, 2006, No.128, pp.12-30.
27. Gen Kikkawa, “Japan and East Timor: Changes and Development of Japan’s Security Policy and the Road to East Timor,” *Japanese Studies*, December 2007, Vol.27, No.3, pp.247-261.
28. 「国際平和と人間の安全は両立するのか」南山大学社会倫理研究所編『社会と倫理』第22号、2008年8月、73-85頁。
29. 「人間の安全保障と国際安全保障の相克—冷戦期国家安全保障を支えた国際政治の論理」『国際法外交雑誌』第108巻第4号、2010年1月、69-104頁。
30. Gen Kikkawa, “Good Governance and the Challenge of Asia,” *Wiener Blätter zur Friedensforschung*, Universitätszentrum für Friedensforschung, September 3, 2010, No.144, pp.19-33.
31. 「民族自治制度とアイデンティティ政治—ザカフカス民族紛争をもたらした自治制度」『法學新法』中央大学法学会、第117巻第11・12号、2011年3月、457-494頁。
32. 「分断される欧州安全保障共同体—安全保障戦略をめぐる対立と相克の軌跡」日本国際連合学会編『国連研究』第12号、2011年6月、95-122頁。
33. 「平和とは何か—だれのための平和、友好、そして援助なのか」広島市立大学広島平和研究所『広島平和研究』Vol.1、2013年11月、38-60頁。
34. Gen Kikkawa, “World War One and Japan: The Unwritten History of the Paris Peace,” *Wiener Blätter zur Friedensforschung*, Universitätszentrum für Friedensforschung, Juni 2, 2014, No.159, pp.27-41.
35. Gen Kikkawa, “The Security Crisis in East Asia and the Dilemma of Japanese Paci-

fism,” *Wiener Blätter zur Friedensforschung*, Universitätszentrum für Friedensforschung, Juni/ 2, 2015, No.163, pp.26-42.

36. 「東欧の民族と国家—民族の自決と国家安全保障の相克の歴史」『早稲田大学平和研究』第8号、早稲田大学平和学研究所、2015年、31-46頁。
37. “The Regional Security System in East Asia: The Dilemma of the US-Japan Security Alliance,” 広島市立大学広島平和研究所編『広島平和研究』Vol.7、2020年3月。
38. 「民族自決と国際平和の相克」日本平和学会編『今、平和にとって「国民」とは何か』早稲田大学出版部、2021年3月、61-77頁。
39. 「共産主義後の移行期正義と安全保障部門改革、1990-2014年」『広島平和研究』Vol.10、2023年3月、155-173頁。

### 【教科書（分担執筆）】

1. 細谷千博・丸山直起編『国際政治ハンドブック』有信堂高文社、1984年（担当章・節、II-D-1、IV-B）。
2. 原正行編『現代国際事情』北樹出版、1986年（担当章、第2章）。
3. 細谷千博・丸山直起編『国際政治ハンドブック』改定版、有信堂高文社、1991年（担当章・節、II-B-2・D-1、V-C、VI-B）。
4. 細谷千博監修、滝田賢治・大芝亮編『国際政治経済資料集』有信堂高文社、1999年（担当章、第L章）。
5. 初瀬龍平・野田岳人編『日本で学ぶ国際関係論』法律文化社、2007年（担当章、第3部10章）。
6. 細谷千博監修、滝田賢治・大芝亮編『国際政治経済—「グローバル・イシュー」の解説と資料』有信堂高文社、2008年（担当章、第29章）。
7. 上村雄彦編『グローバル協力論入門—地球政治経済論からの接近』法律文化社、2014年。
8. 「第一次世界大戦とは何であったのか」「第二次世界大戦とは何であったのか」広島市立大学広島平和研究所編『ふたつの世界大戦と現代世界』広島平和研究所ブックレット、Vol.2、2015年12月、7-32頁、123-152頁。
9. 「武器の進化と国際平和」『核開発と国際社会』広島平和研究所ブックレット、Vol.4、2017年3月、65-90頁。
10. 「安全保障共同体の現状と課題」『核兵器と反人道罪のない世界へ』広島平和研究所ブックレット、Vol.7、2020年3月、161-187頁。
11. II-3「ベルリンの壁を崩壊させたピクニック—『鉄のカーテン』の幕引きの知恵と勇気」日本平和学会編『戦争と平和を考えるNHKドキュメンタリー』法律文化社、2020年。

### 【書評】

1. 「S. ピアラー著『スターリンの後継者』」日本国際政治学会編『国際政治』第68号、1981年。
2. 「馬場伸也編『ミドル・パワーの外交』」日本国際政治学会編『国際政治』第91号、1989年。
3. 「百瀬宏・植田隆子編『欧州安全保障協力会議（CSCE）1975-92』」『国際法外交雑誌』第92巻第2号、1993年6月。
4. 「納家政嗣著『国際紛争と予防外交』」日本国際問題研究所編『国際問題』No.521、2003年8月。

### 【翻訳】

1. 勝部真長・寺谷弘任編・解説『現代のエスプリ・ゾルゲ事件』140号、至文堂、1979年。「日本での活躍」の章の翻訳。
2. 武者小路公秀・白井久和編『転換期世界の理論的枠組み』第2巻、有信堂高文社、1987年。「ひとつの世界と多数の世界」章の翻訳。
3. H. ゴードン・スキリング『利益集団と共産主義政治』南窓社、1988年、第三章、第四章の翻訳、及び「ゴードン・スキリングーその人と業績」の執筆。
4. 白井久和・内田孟男編『新国際学—混沌から秩序へⅡ：多元的共生と国際ネットワーク』有信堂高文社、1990年、第8章「『真の社会主義』とペレストロイカ」の翻訳。
5. 「新欧州のためのパリ憲章」『修道法学』第13巻第1号。
6. 「CSCE ブダペスト文書1994—新時代に向けてのパートナーシップ」『修道法学』第17巻第2号、1995年2月。
7. D.P. モイニハン『パンダモニウム—国際政治のなかのエスニシティ』三嶺書房、1996年。

### 【研究ノート】

「ソ連政治と政治文化」『共産主義と国際政治』第5巻第2号。

### 【随筆、講演録】

1. “The Atomic Bomb and Hiroshima Localism,” in *Rikka*, Summer 1980, Vol.11, No.2.
2. 「イラクの平和構築の行方—もうひとつのイラク戦争反対論」『平和文化』（広島平和文化センター）第153号、2004年。
3. 「国際安全保障論を刊行して」『書斎の窓』No.571、1-2月号、有斐閣、2008年。
4. 「平和の見方と平和創造の方法」『平和文化』第188号、2015年。



5. 「国際平和とは何か—人間の安全を脅かす平和秩序の逆説（学術講演録）」『コスモポリス』No.10、上智大学大学院グローバル・スタディーズ研究科国際関係論専攻『コスモポリス』編集委員会、2016年3月。
6. 「プラハから広島へ—オバマ演説の『続き』と向き合う」『外交』Vol.38、2016年7月。
7. 「平和創造へ政治対話フォーラムの構築」公明党機関紙委員会編『公明』第141号、2017年9月。
8. 「人権と安全保障の相克」日本国際問題研究所編『国際問題』No.704、2021年12月。

### 【学会・シンポジウム報告】

1. 第8回ソ連・東欧学会「ソ連・東欧における反体制運動の国際化」京都産業大学、1979年9月。
2. カナダ・スラヴ学会“The Origins and Change of the Concept of the Party’s Leading Role,” ケベック大学モントリオール校、1980年6月2-4日。
3. 第9回ソ連・東欧学会「『フルシチョフ主義』再考—党組織論を中心に」中央大学、1980年9月。
4. 第24回中四国法政学会「ソ連反体制運動の展開」香川大学、1983年6月。
5. 日本平和学会1988年度春季研究大会「ヘルシンキ・プロセスにおける平和と人権」立命館大学、1988年6月。
6. 日本国際政治学会1989年度春季研究大会「全欧安全保障協力会議プロセスと信頼醸成措置」一橋大学、1989年5月。
7. 国際法学会1989年度秋季研究大会「ヘルシンキ協定と人権保障」京都産業大学、1989年10月。
8. イギリス国際政治学会（BISA）“CSCE Human Dimension and NGOs,” ウェールズ大学、1992年12月14-16日。
9. 日本国際政治学会1995年度秋季研究大会「OSCE 予防外交メカニズム」広島修道大学、1995年10月。
10. 日本平和学会1996年度秋季研究大会「OSCE 予防外交の理論とメカニズム」獨協大学、1996年11月。
11. 日本国際政治学会1997年度春期研究大会「欧州におけるトランスナショナル関係—OSCE と NGO の相互協力関係の発展過程を中心に」筑波大学、1997年9月。
12. 日本政治学会2001年度研究大会「国際秩序における『主権』概念—国際安全保障と内政干渉の正当性」立教大学、2001年10月14日。
13. The 14<sup>th</sup> Biennial Conference of the Japanese Studies Association of Australia, “Japan

and East Timor,” The University of Adelaide, 3<sup>rd</sup>-6<sup>th</sup> July, 2005.

14. 国際法学会2009年春季研究大会「人間の安全保障と国際安全保障の相克」慶応義塾大学、2009年5月9日。
15. 日本平和学会2009年春季研究大会「欧州平和と米国—綻ぶ国家と強靱な平和の狭間で」恵泉女学園大学、2009年6月13-14日。
16. 国際法学会2016年度研究大会「国際平和秩序の変動要因としての民族問題」静岡県コンベンションアーツセンター・グランシップ、2016年9月10日。
17. 日本国際政治学会2017年度研究大会 共通論題「デモクラシーと国際秩序」神戸国際会議場、2017年10月28日。
18. ポルトガル・カトリック大学で開催された国際ワークショップ「平和と民主化の過程」において「欧州とアジアの地域安全保障システムの比較分析」と題して報告（リスボン、2018年12月10-11日）。“Comparative Analysis of Regional Security System of Europe and Asia,” at International Workshop “Processes of Peace and Democratization,” held at Universidade Catolica Portuguesa.
19. 遼寧大学シンポ、遼寧大学（中国瀋陽）でフォーラム “Northeast Asian Politics and Economy under the New Situation” で報告（2019年7月18-19日）。報告タイトル “Northeast Asia Political Reconciliation and an Avenue to Cooperation in Northeast Asia—Reconsideration of the CSCE.”
20. キャンパスアジア広島セミナー（ソウル大学・北京大学・東京大学）で “Security Asia of East Asia in a Dilemma—the Problems and Prospect of Japan-UIS Security Alliance” と題して報告（2019年7月23日）。
21. 2019年度日本平和学会秋季研究集会「平和学の方法と実践」分科会、「民族自決主義の100年—国民国家建設と民族国家建設の相克の歴史」と題して報告（2019年11月3日）。
22. 2020長崎日韓関係カンファレンス（オンライン会議）、第1セッション「コロナ19時代の北東アジアの平和協力」において「なぜ北東アジアは勢力均衡システムから抜け出せないのか」と題して報告（2020年9月17日）。
23. 2020広島韓国フォーラム「東アジアの平和と韓日関係の行方」（リーガロイヤルホテル広島、2020年10月16日）。「北東アジアの共同体構築」と題して報告。
24. グローバル・ガバナンス学会2020年度研究大会、部会2「OSCE 25年—CSCE プロセス、OSCEの役割の再検討」において「CSCE 再考」と題して報告。
25. 「2020広島韓国フォーラム」にて「北東アジアの共同体構築」と題して報告（広島 ANA クラウンプラザホテル、2020年10月16日）。
26. ウェビナー2020ユネスコ・アフリカ地域能力開発国際研究所（IICBA）主催の平和教育研修に “Current Situation and Issues of Security in East Asian Countries—What to learn from experience of Europe” と題して報告（2020年12月8日）。

27. 東西大学（韓国・釜山）で、オンラインで「東アジア安全保障共同体の現状と課題」と題して講義（2020年11月11日）。
28. 『国際問題』ウェビナー『今日の外交と人権』に参加し報告（2022年1月13日）。
29. 立命館大学国際地域研究所主催緊急ウェビナー「ウクライナ 危機と世界戦争・平和・勢力圏・民主主義」において「エスニック政治と侵略戦争」と題して報告（2022年3月3日）。
30. 2022 ユネスコ・アフリカ地域能力開発国際研究所主催の平和教育研修 Peace and Resilience Building in Education from Educational Policies and Course Perspectives: The Experience from Japan において“Current Situation and Issues of Security in East Asian Countries”と題して報告（2022年6月2日）。
31. 日本平和学会秋季研究集会、公共性と平和分科会で「OSCE 共通・包括的安全保障体制と SSR 問題」と題して報告（愛知大学名古屋キャンパス、2022年11月27日）。
32. 全北大学（韓国）における2023日韓地方フォーラムにおいて「共産主義後の移行期正義と安全保障部門改革、1990-2014年」と題して報告（2023年7月28日）。

**【学会活動】**（2023年現在所属の学会活動に限る）

日本国際政治学会会員（1976年入会、理事2002年～2011年、評議員2016年6月～現在に至る）

日本平和学会会員（1982年入会、理事1996年～2007年、2009年～2013年）

国際法学会会員（1989年入会、理事 2006年～2016年6月、評議員2016年6月～2020年6月）

**【教育活動】**（広島平和研究所着任時2013年4月から2023年度末まで）

〈学内教育活動〉

広島市立大学全研究科共通科目（博士前期課程対象）：「国際関係と平和」

広島市立大学大学院平和学研究科：「平和学」（日英両言語開講）、「安全保障論」（日英両言語開講）、「予防外交論」

〈学外教育活動〉

神戸大学大学院国際協力研究科客員教授（2013年4月1日～9月30日）

北九州市立大学非常勤講師（2014年8月28日～9月30日）

神戸大学大学院国際協力研究科客員教授（2015年4月1日～9月30日）

広島大学大学院国際協力研究科非常勤講師（2015年5月1日～9月30日）

東京大学大学院総合文化研究科客員教授（2017年10月1日～2018年3月31日、2018年10月1日～2019年3月31日）